

日焼け止め選びで知っておきたい紫外線の基礎知識

紫外線は波長の長さによって**UV-A(紫外線A波)**、**UV-B(紫外線B波)**、**UV-C(紫外線C波)**の3つの種類に分けられます。そのなかで地表に届くのはUV-AとUV-Bです。まずは、UV-AとUV-Bがどのようなものか、

シワやたるみを引き起こすUV-A

波長の長いUV-Aは、肌の奥の真皮にまで達するので注意が必要です。浴びてすぐに炎症が起きるわけではないものの、ダメージの蓄積によりシワやたるみの原因になります。

炎症を引き起こすUV-B

UV-Bは、太陽から降り注ぐ紫外線のなかに1割程度含まれています。UV-Bは波長が短いので、ガラスは透過せず室内には届きません。その代わりに、屋外での日焼けの原因となるため、「**レジャー紫外線**」と呼ばれています。肌が赤くなりヒリヒリするのがUV-Bで、メラニン色素が沈着してシミやソバカスの原因になります。

日焼け止めの選び方

SPF・PAで選ぶ

日焼け止めを選ぶときに目安になるのが、「SPF」と「PA」の表示です。これは、**紫外線から肌を防御する効果の程度をあらわしたもので**、SPFはUV-B、PAはUV-Aの防止効果を意味します。

- ・日常生活における散歩や市街地での買い物:SPF10~20、PA+~++
- ・短時間の屋外スポーツやレジャー:SPF20~40、PA++~+++
- ・炎天下での長時間の外出やマリンスポーツ:SPF30~50+、PA+++~++++

肌にやさしい成分で選ぶ

日焼け止めには、紫外線から肌を守る「**紫外線防止剤**」が含まれています。紫外線防止剤には紫外線吸収剤・紫外線散乱剤の2種類があるので、それぞれの特徴をよく理解して選びましょう。

客話『税務署雑感』

高松国税局の中には、総務部、課税部、徴収部、調査査察部があります。私が所属したことがあるのが課税部の法人課税課、国税訟務官、調査査察部の調査第二部門・調査三部門などでした。

調査事績の概要

【I.法人税・法人消費税の調査事績の概要】

(1) 法人税の調査事績の概要

令和5事務年度においては、資料情報等の分析・検討を行った結果、大口・悪質な不正計算が想定される法人など調査必要度が高い法人2,162件(前年対比83.2%)について実地調査を実施しました。このうち、法人税の非違があった法人は1,780件(同88.5%)、その申告漏れ所得金額は183億8百万円(同87.5%)、追徴税額は45億13百万円(同84.9%)となっています。

(2) 法人消費税の調査事績の概要

令和5事務年度においては、法人消費税について、2,102件(前年対比83.1%)の実地調査を実施しました。このうち、消費税の非違があった法人は1,264件(同90.6%)、その追徴税額は23億9百万円(同148.2%)となっています。

2.源泉所得税等の調査事績の概要

令和5事務年度においては、法人消費税について、2,102件(前年対比83.1%)の実地調査を実施しました。このうち、消費税の非違があった法人は1,264件(同90.6%)、その追徴税額は23億9百万円(同148.2%)となっています。

【II.主要な取り組み(下記)】

1. 消費税還付申告法人に対する取組 … 不正に還付申告を行っていた法人から8億69百万円を追徴
- 2-1 海外取引法人等に対する取組(法人税) … 海外取引等に係る調査で30億60百万円の申告漏れを把握
- 2-2 海外取引法人等に対する取組(源泉所得税等) … 海外取引等に係る源泉徴収漏れ、1百万円を追徴
- 3 無申告法人に対する取組 … 無申告法人から1億98百万円を追徴

池見融税理士事務所
池見融 様